

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和元年12月5日
タイトル	給食米収穫の喜び！地域と絆を深める収穫祭！2019
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和元年11月7日（木）福山市立東村小学校全児童35名が、学校農園で栽培された米と地域の「老盛会」のご指導のもと児童が植えたサツマイモの収穫を祝い、学校給食食材納入グループ「若草会」や日頃学校の運営でお世話になっている「老盛会」の方々等を招き収穫祭を開催されましたので取材しました。

5、6年生は若草会に教えていただきながら一緒に豚汁を作りました。具材は若草会の会員が作った野菜ばかりです。調理室はいりこの出汁の香りや新鮮な野菜の香りがし、調理をして豚肉を炒めると「いいにおい！」味噌をとくと「味噌のいいかおりがする。」と言いながら4班に分かれそれぞれ25人前、全部で100人前の豚汁を作りました。

子ども達は、みんな上手に野菜を切っていて、家でもよくお手伝いをしているそうです。左利きの子もいて、若草会の方が包丁の使い方を実演して教えると左利きの子は具材を逆向きにくるっとまわして器用に切っていました。

子ども達は、使い終わった調理器具からきれいに洗って片付けて、調理が終わると同時に調理台もきれいに片づけられました。豚汁ができると男性陣が熱い鍋をランチルームまで運んでくださいました。



具沢山の豚汁！みんなで黙々と食材を切ります。



息もぴったり！鍋に食材投入！

ランチルームでは子どもと招待者が交互に座るように配席しており、子ども達が配膳をしました。

1、2年生はお土産の葉を手作りし、3、4年生は玄関やランチルームの飾りつけと受付をし、5、6年生は豚汁の調理と収穫祭の司会進行やクイズなどをして全校児童で「おもてなし」をしていました。



受付では席や控室の案内をしました。



司会進行も堂々として立派です！

収穫祭では、まず児童を代表して米とサツマイモの栽培について感謝の気持ちが伝えられました。若草会の杉原直道会長より「学校再編により東村小学校は閉校しますが東村から子どもがいなくなるわけじゃありません。どんな形になるかわかりませんが頑張ろうと思います。」と挨拶されました。

みんなで合唱し、子ども達といろんな話をし、今日の食材を納入してくださった方の紹介や子ども達からクイズが出され、和気あいあいと新米のご飯と具沢山の豚汁をいただきました。

周りの子どもに感想を聞くと「お米がamai」「豚汁がおいしい」「今年食べたみかんの中で一番甘くておいしい」と言っていました。クイズを10問ほどし、みんなでクイズの答えに歓声をあげ盛り上がりました。

みんなが食べ終わったころ、手をあげておいしかったものと理由を聞きました。「みんなで作った豚汁がおいしかった」「新米の味を楽しみにしていました。若草会のみなさんおいしかったです」と子ども達が発表し、老盛会の方が「今6年生の子どもが1年生のころから独楽回しなどの遊びをしていたことを懐かしく思い出しました。いい思い出になりました。」と言われました。

食べ終わったお膳は、近くに座っている子どもが片付けてくれました。皿や箸をわけてきれいに片づけられていました。

帰りには1、2年生が手作りした「東っくん」の葉を一人一人に「今日はありがとうございました。」言いながら手渡ししてくれました。葉の裏には子ども達からのメッセージがあり、地域の方がプレゼントを手に取り、嬉しそうに読んでおられました。



美味しくて、大人も子どももおかわりしました！



心温まるメッセージに感動！

収穫祭では子ども達も地域の方々も喜びの表情は格別なものでした。水土里ネット福山はこれからも21世紀土地改良区創造運動を通して子どもと地域の絆を深める取組みに協賛してまいります。